

<記入例> 活動報告書

玉川大学教職大学院

フリガナ	タ マ ガ ワ タ ロ ウ		* (記入不要)
氏 名	玉 川 太 郎	受験番号	

- 本活動報告書は、入学選抜の資料にするほか、合格後の教職専門実習免除の可否を決定するための資料となります。
- 次の5つの領域別に、大学卒業後（修了後）に個人（または共同）で行った活動や研究について実施順にその概要を記載してください。行った活動等はすべてこの5領域のいずれかに位置付けて記入してください。それぞれの領域のねらい等は別紙を参照してください。
 - A. 主として教育課程の編成・実施に関する領域
 - B. 主として教科等の指導方法に関する領域
 - C. 主として生徒（児童）指導・教育相談に関する領域
 - D. 主として学級経営・学校経営に関する領域
 - E. 主として学校教育・教員のあり方に関する領域
- 研究会等で発表や活動を行った場合にはその研究会名を、著書のある場合にはその書名を、雑誌論文等は雑誌名と論文名を「 」をつけて必ず記載してください。
- 大学等での講義・講演、教育委員会等の設置した委員会等の委員、研究会等の講師等校外での活動に加え、分掌上の役割や初任者指導、教育実習生指導など校内での活動も領域別に記載してください。
- 黒ボールペンを使用し全て自筆で記入（消せるペン不可）。欄不足の場合は任意の用紙（A4）に記入してください。

※以下は、小学校での活動例です。記載内容を参考として各学校種に置き換えて作成してください。

領域A 主として教育課程の編成・実施に関する領域	
(学校の教育課程を把握し、それを適正に実施できる。)	
H10～14年度	〇〇小学校 校務分掌で教務担当 校内の教育課程案を担当者共同で編成
H15年度	□□区教育委員会主催「新学習指導要領実施検討委員会」委員
H15～18年度	〇〇小学校 学年主任として3・4・1・2年の教育課程を他の教員と共同で作成
H16年11月	□□区教育委員会主催「新学習指導要領実施研究会」で「新しい算数の進め方」発表
H17～18年度	〇〇小学校 教務副主任として校内の教育課程の編成補助
H19年度～	△△小学校 教務副主任として校内の教育課程の編成補助
H21年度	△△小学校 3年の学年主任として教育課程を作成
H6年度～	小学校の学級担任として同学年教員と共同してそれぞれの学年の教育課程を編成。また、共同して教育課程に基づく評価案を作成し、実施してきた。
<簡単なことでも関係しそうなことを、数多く記載してください。以下の領域も同じです。>	

氏名	玉川太郎
----	------

領域B 主として教科等の指導方法に関する領域	
(児童・生徒の学習状況を把握しつつ、明確なねらいをもった授業を適切に実施できる。)	
H6年度～	小学校の学級担任として各学年を指導してきた。
H6年度～	□□区教育研究会算数部員として主に算数の指導法を研究、授業に生かしてきた。
H10～11年度	〇〇小学校 文部省委託研究校「子どもに応じた指導の充実」を研究副主任として研究推進。
	H12年2月に研究発表会の低学年部会で基調発表を行った。
H15年8月	雑誌「教育研究」(▽▽出版刊)に実践記録「新しい算数の実践」を掲載。
H16年6月	教育実習生の指導担当として、指導案作成を含み授業等にかかる総合的な指導を行った。
H16年10月	〇〇小学校 校内研修会で国語の授業公開。授業後この授業をもとに校内研修会を行った。
H19～20年度	△△小学校 □□区教育委員会研究指定校として「道徳教育の充実」を研究委員として推進。
H20年5月	教育実習生の指導担当として、指導案作成を含み授業等にかかる総合的な指導を行った。
H21年度	△△小学校 3年の学年主任として学年内の授業の進め方を調整・実施してきた。
H21年7月	△△小学校 算数の授業公開。この授業をもとに校内研修会を実施した。
領域C 主として生徒(児童)指導・教育相談に関する領域	
(児童・生徒の問題行動等への対応が主体的かつ適切に実施できる。)	
(児童会活動や学校行事について、担当者として企画・調整・実施にあたれる。)	
H14～17年度	〇〇小学校 校内児童指導委員会員として児童会の代表委員会を指導した。
H15～18年度	〇〇小学校 学年主任として遠足等の学年行事を企画・調整・実施した。
H16年度	4年学年主任として同学年の初任教員の学級の不登校児への対応を、その教員を指導しながら実施した。約2週間で何とか不登校を解消した。
H18年度	都教育センター主催の特別支援教育コーディネーター養成講座に指名され出席した。
H19年度～	△△小学校 特別支援教育コーディネーターの指名を受け、校内の特別支援教育を推進する。
H20年度	△△小学校 運動会実行委員長として運動会を企画・調整しリーダーとして実施した。

氏名

玉川 太郎

領域D 主として学級経営・学校経営に関する領域

(担任として、安定的に学級を運営し、保護者との信頼関係を築くことができる。)

(学校の組織や協力体制に基づき、学校組織の一員として適切に校務を分掌し遂行できる。)

H6年度～	〇〇小学校、△△小学校で学級担任(1, 2, 3, 4, 6年, 計12年)を大過なくつとめた。
H6年度～	校長、副校長の指導のもと、原則週1回のペースで学級通信を作成配布。保護者に学級の様子を知らせたり父母懇談会のテーマを事前に知らせるなど保護者との連携に努めた。
H14年8月	□□区教育センター主催「学級通信の作り方」講座で講師をつとめた。
15～18・21年	学年主任として、同学年のリーダーとして学年経営にあたった。
H15～18年度	〇〇小学校 学年主任として企画会に参加。学校経営の一翼を担った。
H16年度	〇〇小学校 学年主任として同学年の初任者の学級経営を指導するとともに、児童どおしの喧嘩をきっかけとした保護者からの不満についてその対応を具体的に指導した。

領域E 主として学校教育・教員のあり方に関する領域

(学校教育の充実・改善に向け、他の教員と協力して職務を遂行できる。)

H10～11年度	〇〇小学校 文部省委託研究「子どもに応じた指導の充実」に研究副主任として積極的にかかわり、同僚教員とともに研究を推進した。(一部再掲)
H18年度	11年度以降も校内研究に積極的に参加してきたが、研究公開授業を行った。
H19～20年度	△△小学校 □□区教育委員会研究指定校として「道徳教育の充実」を研究委員として積極的に進め、△△小学校の教育改革に向け努力した。
H26年度～	各年とも校長の学校経営方針を具体化するための個人目標を作成し、年度末に校長・副校長から指導を受け、自己改革を図る。